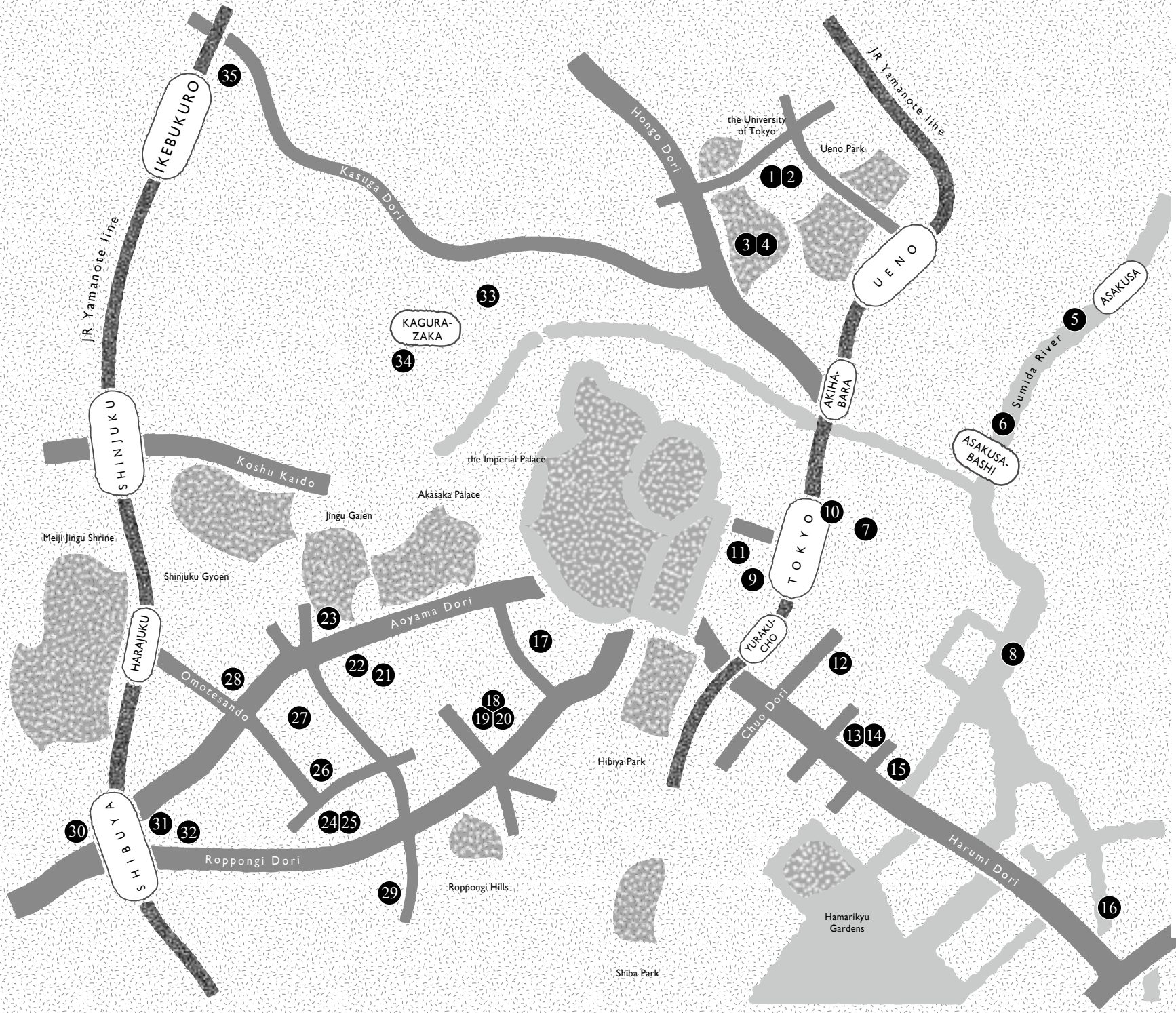
KKAA
ARCHITECTURE GUIDE
TOKYO

2017



KUMAP I

CENTRAL TOKYO

BUILDINGS:

1 = 根津釜竹

2 = ウィーザス根津

3 = 東京大学ダイワユビキタス学術研究館 **4** = くろぎ

5 = 浅草文化観光センター

6 = ヒューリック浅草橋ビル

7 = 茅乃舎 **8** = 東熱ビル

9 = KITTE **10** = しち十二候

11 = 鮨処順

12 = ティファニー銀座

13,14 = 歌舞伎座、寿月堂

15 = 銀座ADKスクエア

16 = 東雲キャナルコート

17 = キャピトル東急ホテル

18= 東京ミッドタウンD北ウィング

19 = サントリー美術館

20 = ルシアン・ペラフィネ 東京ミッドタウン店

21 =暗闇坂宮下 **22** = 梅窓院

23 = エスコルテ青山

24,25 = 根津美術館、カフェ

26 = ミーレセンター表参道

27 = サニーヒルズ ジャパン

28 =ONE表参道 **29** = 分とく山

30 = JR渋谷駅ファサード

31 =渋谷駅東口再開発計画

32 =レッドブル・ミュージック・アカデミー **33** = 赤城神社

34 = la kagu **35** = 豊島区役所

KUMAP 2

WESTERN TOKYO

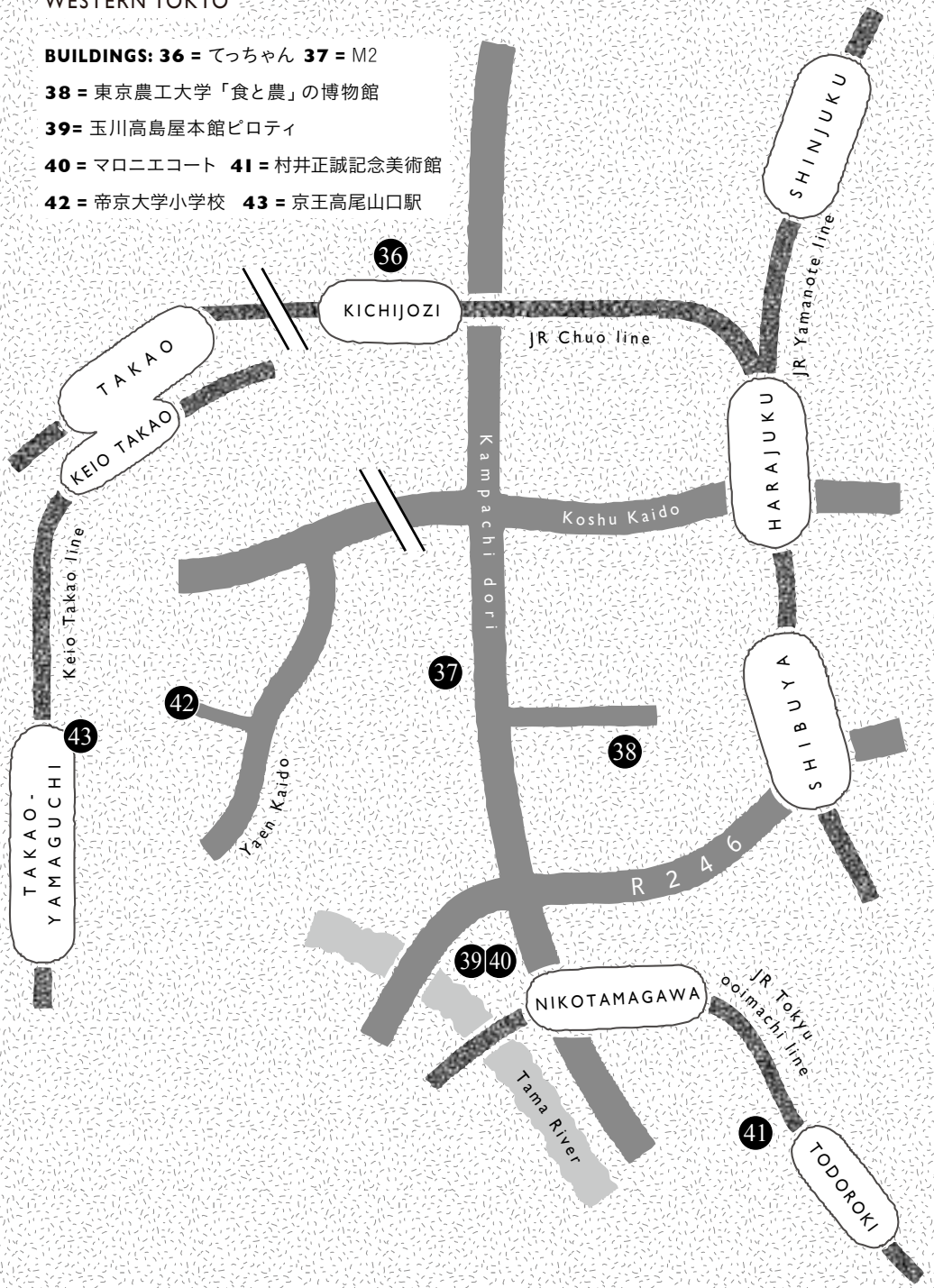
BUILDINGS: 36 = てっちゃん **37 =** M2

38 = 東京農工大学「食と農」の博物館

39= 玉川高島屋本館ピロティ

40 = マロニエコート **41 =** 村井正誠記念美術館

42 = 帝京大学小学校 **43 =** 京王高尾山口駅



① 根津釜竹
NEZU KAMACHIKU

うどん屋

113-0031 文京区 根津2-14-18

(03) 5815 4675

OPEN HOURS: 11:00-14:00 17:30-21:00

(L.O.20:30)、 日11:30-14:00、月曜休

大阪の名店うどん屋さんの東京初出店。谷根千(谷中・根津・千駄木)と呼ばれるこの界隈は、明治の文人墨客が愛した土地柄で、戦時中にも残った建物が多いことから、東京の古い町並みを味わえる。高齢者施設と同じ敷地内にある。明治43年に建てられた石蔵を改装し、太い梁と高い天井が重厚な一室と、庭を一望できるモダンな一室で構成されている。

② ヴィーザス根津
WHITHUS NEZU

介護付老人ホーム

113-0031 文京区 根津2-14-18

(03) 5815 4665

③ 東京大学ダイワユビキタス学術研究館
DAIWA UBIQUITOUS COMPUTING RESEARCH BUILDING

大学施設
113-0033 文京区 本郷 7-3-1 東京大学本郷キャンパス 春日門
(03) 5841 5902 (情報学環 学際情報学府)

東京大学、情報学環の新分野(ユビキタスコンピューティング)のための、研究棟。コンクリート、金属、石といった硬質な素材で作られてきた従来のキャンパスのイメージをこわし、木と土でできたやわらかな建築をめざした。自然素材(木、土)で作られたウロコ状のパネルが、ゆるやかにうねりながら、スムーズで生物的なファサードを構成する。
建物の中心には、やわらかな、皮膜で覆われた内臓的な孔がうがたれて、前面の路地空間と、裏側の日本庭園を接続し、グリッド状の配置が支配するキャンパスの中に、有機的でやわらかい、光と風の流れを生成する。

④ くろぎ
KUROGI

和菓子店
113-0033 文京区 本郷7-3-1 東京大学本郷キャンパス 春日門 ダイワユビキタス学術研究館 1F
(03) 5802 5577
OPEN HOURS: 11:00-14:00

⑤ 浅草文化観光センター
ASAKUSA TOURIST INFORMATION CENTER

観光案内所、展示場と飲食店
111-0034 台東区 雷門2-18-9
(03) 3842 5566
OPEN HOURS: [B1-3F,6F,7F] 9:00-20:00、[4F,5F,8F] 9:00-22:00、[8F喫茶] 10:00-20:00、[1Fチケット] 11:00-20:00

雷門の向い側の角地、わずか326㎡の敷地に、観光案内所、会議室、多目的ホール、展示室といった多様なプログラムが求められた。
江戸の文化を今に伝える雷門の門前に、伝統的木造住宅を7つ積み重ねたような、複合的な文化センターを提案した。浅草という土地に残る界隈性の立体化、垂直化を試みた。それぞれのフロアには、勾配のついた屋根と天井、木製のルーバーが付加され、昔ながらの木造の家にいるような、安らぎ、くつろぎを得ることができる。屋根とルーバーは、日射を防ぐ役割もはたし、また、屋根と上階の床との間の空間は設備のための空間として有効利用され、天井の高さを最大化するのにも貢献した。

⑥ ヒューリック浅草橋ビル
HULIC ASAKUSABASHI BUILDING

オフィスビルと多目的スペース
111-0053台東区 浅草橋1-22-16
(03) 5822 5971

⑦ 茅乃舎
KAYANOYA

グロサリー
103-0022 中央区 日本橋室町1-5-5 コレド室町3 1F
(03) 6262 3170
OPEN HOURS: 10:00-21:00

茅乃舎の原点である、福岡県久山市、久原醤油を訪れ、その120年続く伝統的な醤油蔵の空間そのものを、日本橋に再現しようとした。
天井には醤油桶を浮かせた。伝統的な醤油造りに使う桶は大きく力がある。商品をディスプレイする什器には「麹蓋」を使用。麹蓋は醤油の原料である麹を発酵させるときに使う木製のトレーで、機能性とシンプルな美しさを併せ持つ。日本橋の町にそれが突如として出現するインパクトを作り出した。
麹蓋と桶に使う杉材はすべて九州のもので、製作も九州の職人に依頼し、地域と密着したデザインを目指し、日本の職人の技と力を味えるようにした。

⑧ 東熱ビル
TONETS BUILDING

オフィスビル
104-0031 中央区 京橋2-5-12
(03) 5250 4112

⑨ KITTE
KITTE

複合商業施設
100-7001 千代田区 丸の内2-7-2
(03) 3216 2811
OPEN HOURS: 月-土[shop] 11:00-21:00 [restaurant] 11:00-23:00、日祝[shop] 11:00-20:00 [restaurant] 11:00-22:00

⑩ しち十二候
SHICHIJUNIKOU

日本料理屋
100-0005 千代田 区丸の内1-9-1
東京ステーションホテル B1
(03) 6269 9401
OPEN HOURS:平日 11:00-15:30(L.O.14:30) 17:00-23:00(L.O.21:30)、土日祝 11:00-15:00(L.O.14:00) 14:00-16:30(L.O.15:30)
17:00-23:00(L.O.21:30)

⑪ 鮨処順
SUSHIDOKORO JUN

すし屋
100-8086 千代田区 丸の内2-3-1
三菱商事ビル B1F
(03) 6212 8800
OPEN HOURS: 平日11:30-14:00(L.O.13:30)
17:00-22:00 (L.O. 21:30)、土11:30-21:00
(L.O. 20:30)、日祝休

新橋の人気鮨店が丸の内に出店。「光と石を風」をテーマにした、暖かく落ち着いた空間で、繊細な鮨が味わえる。

⑫ ティファニー銀座本店
TIFFANY GINZA

宝飾品店
104-0061中央区 銀座 2-7-17
(03) 5250 2900
OPEN HOURS: 10:30-20:00

銀座通りに面して建つテナントビルを、ファッションブランドのフラックシップストアへリノベーションした。既存のビルと敷地境界線との80センチの隙間に、ガラスとアルミハニカムでつくった特殊パネル(ファセット・パネル)の集合体を挿入し、重たく、硬いビルを光をキラキラと反射し透過する、軽やかで透明な箱へと転換した。
ファセット・パネルは、航空機用のアルミハニカムを2重にレイヤーし、それを合わせガラスで挟み込むことで、直射光をカットしながら透明性を確保した、地球環境にやさしいカーテンウォールを実現した。パネルのフレームやヒンジは自動車用のラッチを用いることで、高精度かつ安全性の高いディテールを実現し、それを一つ一つ、4本の支持構造体で既存のビルにアンカーすることで、一枚一枚のパネルに異なる角度を与えることが可能となり、劇的な反射の表情をもったファサードが生まれた。

⑬ 歌舞伎座
GINZA KABUKIZA

劇場とオフィス
104-0061中央区銀座4-12-15
(03) 3545 6800
OPEN HOURS: 公演日、時間に準じます

江戸時代から続く、日本を代表するエンターテイメントの常設小屋。専門劇場として1890年(明治22年)に創設されて以来、何度か立て替えられ、2013年に開館した隈事務所設計の歌舞伎座は、第五期にあたる。デザインは第4期の劇場を継承し、可能な限り部材は再利用している。背後の高層ビルが経済的な基盤として劇場を支える一方、新たな試みとしては、建物の前面に広場を設けたり、側面の店舗にアーケードをかけたり、劇場とその周辺で、江戸時代の「芝居町」を復活させている。地域の防災拠点としての機能も備えている。

⑭ 寿月堂歌舞伎座
JUGETSUDO KABUKIZA

日本茶専門店と喫茶
104-0061中央区 銀座4-12-15
歌舞伎座タワー5F
(03) 6278 7626
OPEN HOURS: 10:00-19:00

歌舞伎座の屋上庭園に面する日本茶を供するカフェ。ピッチの異なる竹スクリーンで空間を柔らかく仕切り、屋上の日本庭園に突き出した庇と連続するように天井を「折る」ことによって、庭と室内とをつなぐ、折り紙のような空間ができあがった。密度の異なる竹のレイヤーを幾重にも重ねていくことで、歌舞伎座と庭園を柔らかく接続する、竹林のような空間が生まれた。

⑮ 銀座松竹スクエア
GINZA SHOCHIKU SQUARE

オフィスビル
104-0045 中央区 築地1-13-1

歌舞伎座近く、飲食店、オフィス、住居も設置された高層ビル。エントランス空間に全長３０mの大階段を特徴とする。桟敷席をイメージし、昇降だけでなく、人が集まれる公共空間としても機能している。

⑯ 東雲キャナルコートCODAN
SHINONOME CANAL COURT CODAN

集合住宅と店舗
135-0062 江東区 東雲1-9-17
(03) 5547 0180 (サービス・センター)

UR(都市機構)による、新しいタイプのと新型複合型の賃貸集合住宅。URは高度成長期の住宅供給の主役として、日本の高度成長を支える役割をはたした。URが建設した郊外型の大規模団地は、20世紀の日本人の居住スタイルのモデルとなった。団地は、ファミリータイプの子育てのための画一的なユニットで埋め尽くされていた。
この東雲では、逆にスモールオフィス・ホームオフィスなどの事務所機能、塾、お料理教室などの教育・交流機能をはじめとする非居住機能を誘導することで、多様性に富んだ、寛容な住居複合体を目指した。
平面計画でも、多様性を重視し、デュプレックス、トリプレックスにとどまらず、廊下をはさんでつながる「離れタイプ」や、屋上に個別の庭園や菜園をもつタイプにも挑戦した。
21世紀のライフスタイル・ワークスタイルの多様化、家族形態の多様化を許容する、「ゆるやかな」都心型団地を生み出すことができた。

⑰ キャピトル東急ホテル
THE CAPITOL HOTEL TOKYU

ホテル
100-0014 千代田区 永田町2-10-3
(03) 3503 0109

1963年に創業のキャピトル東急ホテル(当時は東京ヒルトンホテル)は、初来日したビートルズや、有名オペラ歌手、マイケル・ジャクソン等アーティストに愛されたホテルとして知られていたが、老朽化で2006年に取り壊され、2010年に、ザ・キャピトルホテル東急として開業した。キャピトルの名は、近くの国会議事堂からとっている。高層タワーとして生まれ変わったが、木造建築の軽やかさを取り戻すため、「石の格子」のような外壁、内部では、斗☒とよばれる伝統的木造建築の骨組みを取り入れている。

⑱ 東京ミッドタウンD北ウィング
TOKYO MIDTOWN D-NORTH WING

ショッピングセンター等の複合施設
107-0052 港区 赤坂9-7-1
(03) 3475 3100
OPEN HOURS: [shop] 11:00-21:00、[restaurant] 11:00-24:00 (店舗により異なります)

複数のレストランが入居する商業ビル。単一のカバーで包むではなく、それぞれのレストランに、それぞれの曲率を持つ曲面が対応するような形態の法則としている。

⑲ サントリー美術館
SUNTORY MUSEUM

美術館
107-8643 港区 赤坂9-7-4
東京ミッドタウン ガーデンサイド
(03) 3479 8600
OPEN HOURS: 日-木10:00-18:00、
金・土10:00-20:00、火曜休

都市の中に、人の心をいやすような静かな美術館をつくろうと考えた。白いセラミックパネルでつくられた垂直のルーバーをファサードに用い、光をコントロールしながら、美術館と庭園とをつなごうと試みた。このファサードの内側には、スライドする機構で光をコントロールする可動式スクリーンを設け、展示方法によって様々な光の状態を調整できるディティールとした。このディティールは、ガラスの無い時代に日本の住宅に用いられていた、日本の伝統的なディティール、「無双格子」にヒントを得た。

⑳ ルシアン・ペラフィネ 東京ミッドタウン

ブティック
107-8643 港区 赤坂9-7-4
東京ミッドタウン ガレリア 2F
(03) 5647 8333
OPEN HOURS: 11:00-21:00

「キング・オブ・カシミア」と呼ばれるルシアン・ペラフィネの東京ミッドタウン内のブティック。レーザーカッターによって一枚一枚が異なるカーブの形状に切り出された構造用合板を、10cmのピッチで規則的に配置し、やわらかな洞窟上の空間を獲得した。
高級ブティックが並ぶ東京ミッドタウンの中で、構造用合板という安価でラフな素材は異質である。カシミアをストリートに展開したいというルシアンのフィロソフィーを、われわれは構造用合板を用いて形にした。

㉑ 暗闇坂宮下
KURAYAMIZAKA MIYASHITA

日本料理屋
107-0062 港区 南青山2-24-8 BY-CUBE 1F
(03) 5785 2431
OPEN HOURS: 12:00-15:00(L.O.14:00)
18:00-23:00(L.O.21:30)、日祝休

㉒ 梅窓院
BAISO IN TEMPLE

寺院
107-0062 港区 南青山2-26-38
(03) 3404 8447
OPEN HOURS: 8:00-19:30

都市型寺院の再生プロジェクト。梅窓院は360年前に建てられ、日本の中でも最も古い寺院の一つである。かつて日本の寺院は、都市の中のコミュニティセンターとして、重要な役割を担っていた。この伝統を復活させ、文化ホール機能、教育機能、集合住宅機能を併せ持つ、あたらしい都市型寺院を提案した。
形態的には、瓦の大屋根にかわって、深いハゼをつけた、強い陰影をもつ金属板葺きの屋根を提案し、壁ではなく屋根によって都市景観を構成するという日本の都市デザインの伝統を、新しい形で再生させた。金属板のルーバーは光の方向と強さによって色と形が変化するように見える。この屋根は自然現象に敏感に反応するアンテナであり、人々に自然の変化を認識させる。傾いたルーバーの壁の着地点に建物のエントランスがある。ルーバーは地上レベルから延び、かつての寺院や境界が都市のオープンスペースとして機能したように、都市の活動が建物内に溢れていく。都市と寺院が一つの空間に融合するように計画されている。

㉓ エスコルテ青山
ESCORTER AOYAMA

オフィスと店舗
107-0061 港区 北青山 2-7-15

ＮＴＴ青山ビルの、低層部のコンバージョンである。かつてはブラックボックスであった電話局を都市に開き、いかに都市に参加させることを目標とした。「やわらかな」青山通りに面した1階部分にカフェ、花屋、インテリアショップという機能を挿入。ブラックボックスとストリートの間のインタフェイスとした。青山通りと裏側のスタジアム通りとはＦＲＰ製のグレーチングと竹の植栽とで覆われた「孔」で結びつけた東京の中に有機的なテクスチャーを持つ「孔」をあけることで、東京の中にかつて存在していた路地ネットワークを再生しようと考えた。

㉔ 根津美術館
NEZU INSTITUTE OF FINE ARTS

美術館
107-0062 港区 南青山6-5-1
(03) 3400 2536
OPEN HOURS: 10：00-17：00、月曜休

東京の中心部に、屋根の架かった、庭と一体化した、環境と融合したミュージアムをつくろうと試みた。コンクリートの箱として閉じたミュージアムではなく、大きなガラスの開口によって庭と一体化した展示空間をつくり、庭と建築とアート作品とがひとつに融合した状態をつくり出そうと考えた。深い庭に覆われて、竹によって特徴づけられたアプローチ空間は都市のソニックからスピリチュアルアートの空間を守るための仕掛けである。

㉕ 根津カフェ
NEZUCAFÉ

カフェ
107-0062 港区 南青山6-5-1
(03) 3400 2536
OPEN HOURS: 10：00-17：00 (L.O. 16:15)、月曜休

根津美術館の庭園内にある。ガラス越しに周囲の森が眺められ、壁や天井が、傘や、木造住宅でも使われる透湿通気シート・タイベックを使用し、トップライトから、木漏れ日のような光が味わえる。

㉖ ミーレセンター表参道
MIELE CENTER OMOTESANDO

家電製品と業務用機器のショールーム
107-0062 港区 南青山 4-23-8
0120 310 724
OPEN HOURS: 11:00-18:00、月曜休
(休祝日の場合は営業し翌日休業)

㉗ サニーヒルズ　ジャパン
SUNNYHILLS JAPAN

パイナップルケーキ・ショップ
107-0062 港区 南青山3-10-20
(03) 3408 7778
OPEN HOURS: 11:00-19:00

日本の木造建築に伝わる「地獄組み」という名のジョイントシステムを用いて、森のような、雲のようなやわらかであたたかくヒューマンな空間を創造した。
３次元の構造システムの採用によって、一つの部材の断面寸法は60ｍｍ×60ｍｍにまで細くすることが可能となった。
この枝のように細い木でつくられた空間は、徹底して素材にこだわったパイナップルケーキを試食するために使われている。

㉘ ONE OMOTESANDO
ONE OMOTESANDO

オフィスとファッション・ビル
107-0061 港区 北青山3-5-29
OPEN HOURS: (shop)11:00-20:00

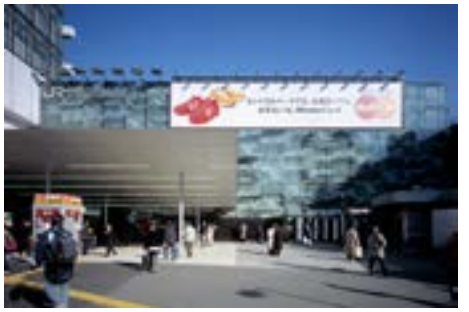
東京の2つの幹線道路、表参道と青山通りとの交差点にたつ、ルイ・ヴィトン・ジャパン・グループのヘッド･クォーター。外壁は全て、カラマツ集成材製のデプス45cm、ピッチ60cmのルーバーで覆われ、表参道のケヤキ並木と木製ルーバーとが響き合うようなディテールとした。木製ルーバーは前面のケヤキの並木と共鳴し、また、表参道の突き当りに位置する東京の聖地、明治神宮の木造建築とも共鳴する。木製ルーバーは室内を直射日光から守ることで省エネルギーに貢献し、また二酸化炭素を固定することで温室効果の低減にも貢献している。
日本の建築基準法では、大規模な都市における建築の外壁で木材の使用は禁止されているが、外壁にドレンチャーを設置することで特別に許可を得た。かつての東京は木でできたヒューマンスケールの「やわらかな都市」であったが、コンクリートがこの都市を一変させた。もう一度「やわらかさ」を都市に復活させたいと考えた。内部は、ガラスクロスで、壁、天井、家具などを作り、やわらかい空間作りをめざした。

㉙ 分とく山
WAKETOKUYAMA

日本料理屋
106-0047 港区 南麻布5-1-5
(03) 5789 3838
OPEN HOURS: 17:00-23:00(L.O. 21:00)
日曜休

ミシュランスターを持つ、東京を代表する和食のレストランである。
100mm厚の既製品のセメント板を200mmにスライスしたものを、道路と建築の間のスクリーンの材料に用い、都心部に静寂の空間を作り出した。
安価な工業製品が、スライスという操作一つによって、高級和食レストランの空間を生成するというジャンプに挑戦した。竹や和紙や土壁という和風レストランのクリシェに対する批評でもある。

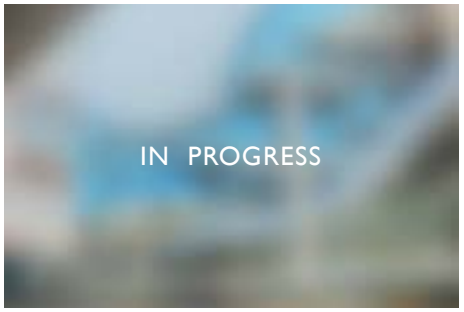
㉚ JR渋谷駅ファサード
JR SHIBUYA STATION FAÇADE



駅
150-0043 渋谷区 道玄坂1-1
(03) 3461 0587

渋谷は建築、広告、映像が境界なく融合し、流れ続ける町である。
この地域の中心となるターミナルステーションに、流石的な流体性と透明性を与えようと試みた。不透明な外壁を取り払ってガラスに置換し、前面のハチ公広場と駅のプラットホームとを一つに接合した。ガラスには、現地でデジタルカメラを使って撮影した雲の映像をセラミックプリントを用いて転写し、実際の雲のリフレクションか、ガラスに転写された雲の映像かを、判別できないような曖昧な状態を作った。ガラスへのセラミックプリントは、白とグレーの２色のイメージを６ｍｍのディスタンスをあけて２重にプリントし、一種の立体視の効果をねらった。自分の視点が変化すると、雲の形や色も微妙に変化する。二次元と三次元の間に宙吊りになっているファサードをつくることを目指した。それは現実と非現実、または物質と非物質の間の宙吊りでもある。

㉛ 渋谷駅東口再開発計画
SHIBUYA STATION AREA REDEVELOPMENT PROJECT



駅と複合施設

150-0002 渋谷区 渋谷2-24-1

㉜ レッドブル・ミュージック・アカデミー
RED BULL MUSIC ACADEMY

音楽学校

150-0002 渋谷区 渋谷1-3-3

㉝ 赤城神社
AKAGI JINJA SHRINE

神社と集合住宅

162-0817 新宿区 赤城元町1-10

(03) 3260 5071

空に開かれた「坂」の参道の頂に、原初的な屋根と柱だけの社殿がある。
緩やかな坂を上り体が上昇し、社殿を介して自然の中に体が解放される感覚を想定した。
社殿は、白木の檜角材の角を正面にして並べた「連子格子」の外装によって外部環境との関係を制御し、屋根は2枚の板を互い違いに重ねて並べた「大和葺き」を鋼板屋根によってつくり出した。

㉞ la kagu
LA KAGU

キュレーション・ストア

162-0805 新宿区 矢来町67

SHOP: (03) 5227 6977

CAFE: (03) 5579 2130

OPEN HOURS: (shop)11:00-20:30、(cafe) 11:00-20:30 (L.O.20:00)

神楽坂は東京の中でも、最も歴史的街並みが残る街である。その神楽坂の本の倉庫をリノベーションして、大地のようなやわらかな広場とカフェとショップをつくった。
倉庫を街へと開き、倉庫 I 階床と交差点とを、オーガニックな形状をもつ、大地のような木製の階段でつないだ。階段は分岐して、レクチャースペースのある 2 階の床ともつながる。街と倉庫がつながり、地面と建築がつながり、過去と現代とがつながった。

㉟ 豊島区新庁舎
TOSHIMA CITY HALL

区役所
171-0022 豊島区 南池袋2-45-1
(03) 3981 1111

㊱ てっちゃん
TECCHAN

焼き鳥屋
180-0004 武蔵野市 吉祥寺本町1-1-2
ハモニカ横町
(0422) 20 5950
OPEN HOURS: 15:00-23:00

戦後のヤミ市の雰囲気を伝える、不思議なストリート、吉祥寺ハモニカ横丁の小さな焼き鳥屋のインテリアデザイン。
リサイクル資材 — ランケーブルをリサイクルした「モジャモジャ」と、アクリルをリサイクルした「アクリル団子」ー を内装材から家具にまで徹底して用いることで、形態が消えて、マテリアリティと色彩だけが空中を浮遊するような、不思議なインテリアができた。湯村輝彦による壁画とのマッチングも面白いものになった。

㊲ M2
M2

セレモニーホール
157-0073世田谷区 砧2-4-27
(03) 3749 0983

東京のエッジをリング状につなぐ環八に沿ってたつ、自動車メーカーのデザイン・ラボ。
東京のエッジは様々な建築様式、素材、スケールが混在する断片が散在するカオスである。その断片の集積状態を、意図的に加速、強調してひとつの建築の中に実現した。中が大きな空洞となったイオニア式の柱、ロシア構成主義のレオニドフのアンテナ、高速道路の遮音板などが、脈絡無く重合している。
その後、ほとんどオリジナルのデザインのまま葬祭場へと転用された。

㊳ 東京農業大学「食と農」の博物館
FOOD AND AGRICULTURE MUSEUM

博物館と研究施設
158-0098 世田谷区 上用賀2-4-28
(03) 5477 4033
OPEN HOURS: [4月-11月] 10:00-17:00、[12月-3月] 10:00-16:30(入館30分前まで)、月曜・毎月最終火曜・祝日休(月曜祝日の場合は開館、翌日休)

東京農業大学「食と農」の博物館・進化生物研究所。地域に開かれた、新しい時代のユニバーシティ・ミュージアム。展示空間と実験場とカフェとが有機的に融合し、地域の人々と研究者との交流が自然に発生するようなミュージアムとなった。
敷地前面の馬事公苑のケヤキ並木と、ミュージアムとを、芦野石製の縦ルーバーを媒介として、ひとつに接続した。素材の選択においては、エイジングをテーマとし、時とともに美しく色合いが変化する自然素材(たとえば吸収率が高く、ソフトな質感をもつ芦野石)を使うことで、農業大学にふさわしい「生物的建築」つくりをめざした。

㊴ 玉川高島屋本館ファサード
TAMAGAWA TAKASHIMAYA S.C. MAIN BUILDING PILOTI

ショッピング・センター
158-8701 世田谷区 玉川3-17-1
(03) 3709 3111
OPEN HOURS: [百貨店] 10:00-20:00、[専門店] 10:00-21:00

玉川高島屋ショッピングセンターの４０周年を記念してのリニューアルプロジェクト。既存の四角いハコ状の建物に、雲をモチーフとしたオーガニックな庇を貫入させることで、建築と自然とをつなぐ、メディアを生成した。総距離140メートルのピロティに、すべて形状の異なる168枚のアルミパネルを挿入し、それぞれの板に40ミリの穴を80ミリピッチで開けることで、軽量化と強度のバランスを図った。

㊵ 玉川高島屋マロニエコート
TAMAGAWA TAKASHIMAYA MARRONIER COURT

ショッピング・センター
158-8701 世田谷区 玉川3-17-1
(03) 3709 3111
OPEN HOURS: 10:00-21:00

緑をテーマとする玉川高島屋の北西棟。ステンレスメッシュを折り曲げることで強度を与え、大地の鉄骨無しの、メッシュだけのファサードを構成し、そこに植物をはわせることで「やわらかな緑の建築」を作った。
ヘデラ・カロライナジャスミン・テイカカズラ・トケイソウなどを混ぜることで、季節ごとに花の咲く建築をめざし、「緑の庇」によって今までの商業建築にはないやさしい表情を獲得することができた。

㊶ 村井正誠記念美術館
MURAI MASANARI ART MUSEUM

美術館
158-0091 世田谷区 中町1-6-12
(03) 3704 9588 (日曜日のみ)
OPEN HOURS: 予約制(氏名・住所・電話番号・下記期間内の来館希望日時を、2週間前までに往復はがきにて郵送のこと) 3月-11月の金・日曜 11:00-13:00、14：00-16：00

日本のmodernism paintingのパイオニアである故村井正成(1905-1999)のための個人美術館。
1940年代に村井さんが東京郊外の静かな住宅地にたてた築60年の木造住宅を美術館に改修した。村井さんがアトリエとして使っていた小さな部屋をそのまま保存し、その外側に、もうひとつの大きい箱をかぶせ、大きい箱と小さい箱の間に生成される隙間の部分を展示空間とした。
外壁には、解体した家の古材を用いた。古い時間と新しい時間とを、素材を用いて同居させようと試みた。

㊷ 帝京大学小学校
TEIKYO UNIVERSITY ELEMENTARY SCHOOL

小学校
206-8561 多摩市 和田1254-6
(042) 357 5577

かつての日本の学校はすべて木造校舎であった。木の空間のあたたかさ、やわらかさから子供たちは多くのことを学んだ。僕自身木造校舎で学び、そこでの体験は忘れがたい。
木造校舎を現代に再生しようと試みた。木造校舎とは大きな屋根と内外装における木のマテリアリティで構成される。屋根はその長さや軒の高さを変えることで、周辺環境や内部プログラムに柔軟に対応して多様性を生む。この計画ではまず大きな屋根で全体を覆い、多摩丘陵の緑が連なる南側に対しては大らかな表情を、公団の団地が並ぶ北側に対しては小さな表情を持つように屋根の形態を操作し、周辺環境との調和を図った。空間構成においては屋根の下にいて、屋根に守られているという感覚を建物のどこにいても感じられるようにした。3階建ての建物でありながら、吹き抜けやステップフロアという仕掛けで、断面的につなげることで、子供たちは学年という枠を飛び越えて、自由に屋根の下を移動している。
材料においては、木を多用するだけではなく、ワラ・イグサといった日本独特の自然素材を用いたリサイクル建材を積極的に用いることで、子供たちに素材の豊かな感覚に触れてもらいたいと考えた。

㊸ 高尾山口駅
TAKAOSANGUCHI STATION

駅
193-0844 八王子市 高尾町2241
(042) 661 6825

東京の西の聖地、高尾山の最寄駅、京王線高尾山口の駅を、木でできた大屋根を用いて、全面的に改修した。木の大屋根は、日常の世界と聖地との結界であり、鉄道という近代のインフラと、大自然との間のボーダーとしても機能している。
駅のホームも木を用いてリ・デザインし、高尾山の行灯からヒントを得た照明器具から発する暖かな光が、乗客を別世界へと導く。

KENGO KUMA & ASSOCIATES
2-24-8 BY-CUBE 2F Minamiaoyama
Minato-ku Tokyo 107-0062 Japan
Tel: +81 3 3401 7721
Fax: +81 3 3401 7778
kuma@ba2.so-net.ne.jp
http://kkaa.co.jp/